

診断北海道

VOL46 / 2021 SPRING

『診断北海道』第46号 令和3年2月発行
企画・編集 中小企業診断協会北海道 広報情報委員会
発行 一般社団法人 中小企業診断協会北海道

- ① ヘッドライン
「コロナ禍における理論政策更新研修」
- ② 年頭所感
経済産業省北海道経済産業局長
安藤 保彦 様
- ③ 令和3年知事年頭所感
北海道知事 鈴木 直道 様
- ④ 年頭ご挨拶
中小企業診断協会北海道 会長
北海道中小企業診断士会 理事長
山崎 記敬
- ⑤ 診断士 with コロナ「中小企業支援の現場」
- ⑥ 診断士 with コロナ
「オンライン会議を極める」
- ⑧ 診断士 with コロナ
「研究会は今」
- ⑨ 診断士 with コロナ
「この1年間に入会した
診断士の方々を一挙ご紹介！」
- ⑩ 診断士 with コロナ
「北海道の若手診断士が考える
未来の経営戦略」
- ⑫ スケジュール・事務局だより

HEADLINE

コロナ禍における理論政策更新研修

中小企業診断協会北海道

おやま まさひろ
会員委員長 尾山 将洋

昨年はコロナ禍で明け暮れた1年となり、皆様もその対策で試行錯誤された1年だったのではないかと存じます。会員委員会の活動も同様で、新型コロナウイルス感染予防対策を施しての理論政策更新研修開催に向けて、事務局ときめ細かに打合せを重ね、札幌・旭川計5回を何とか無事に開催することができました。これは受講者の皆様のご理解、および事務局・運営スタッフのご協力によるものと深く感謝しております。

さて本年の理論政策更新研修につきましては、まだ具



体的な指示は出ておりませんが、当面はコロナ禍が継続することとされますので、本年も感染予防対策を施しての開催になることが予想されます。あらためて皆様のご理解とご協力を賜りたく、宜しく願い申し上げます。

年頭所感

経済産業省

北海道経済産業局長

あんどう やすひこ
安藤 保彦



令和3年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年の我が国経済を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大の影響を受け、海外からの入国規制や東京五輪の延期、緊急事態宣言発令に伴う営業・外出の自粛要請など、これまで経験したことのない大きな環境の変化に翻弄され、大変厳しい一年となりました。

北海道経済に目を向けると、足下では製造業で持ち直しの動きが見られるなど、一部に明るい兆しも見えてはおりますが、インバウンド需要の消失や旅行・外出の自粛などにより、道内の基幹産業である食・観光関連産業を中心として依然として大きな打撃を受け続けています。

他方、新型コロナウイルス感染症の拡大は、オンラインサービスやテレワークの浸透などデジタル化の加速、本社機能の地方移転や地方移住の増加など、働き方や暮らし方にも大きな変容をもたらしました。

コロナ禍からの経済の立て直しには、これらの変容を契機とした「新たな日常」を前提に、生産性向上や事業内容の変革等の取組が必要不可欠であります。私ども北海道経済産業局では、働き方の変革、経済活動の変革、そして社会の変革に柔軟かつ迅速に対応できる北海道経済の進化に向けて、次の3つの政策に全力で取り組んでまいります。

第一に、北海道経済の回復です。新

型コロナウイルス感染拡大の影響を受けている中小・小規模事業者の事業継続に向けた資金繰り支援や従業員の雇用維持と人手不足の解消を図るための人材マッチング事業等のほか、DX(デジタルトランスフォーメーション)推進を通じた生産性向上や事業転換・再構築など「新たな日常」へ対応する企業の取組を支援してまいります。

また、道内経済が進化していくためには新たなビジネスの創出が不可欠であります。このため、産学官金と連携したイノベーション創出やスタートアップ企業の事業化・成長支援を実施してまいります。さらに、道内経済を牽引する中堅・中核企業を対象とした伴走型支援事業も本格的に展開し、地域の稼ぐ力の底上げを図ってまいります。

第二に、地方創生の推進です。道内における札幌市一極集中・東京圏への転出超過を是正するためには、道内各エリアにおける中核都市の魅力を高め、経済活力を維持・発展させていくことが重要であります。このため、昨年は道内複数の中核都市と覚書を締結し、それぞれの地域の強みを活かした魅力あるまちづくりと地域課題の解決に向け、当局のリソースを集中投入し、面的支援を実施してまいりました。今年も当該地域での取組を継続するとともに、新たな地域との連携も視野に入れながら、地域経済の活性化に努めてまいります。

第三に、エネルギー政策の推進です。2050年カーボンニュートラルの実現を目指して、広大な北海道の地域特性を生かした再生可能エネルギーの導入促進、カーボンリサイクルの推進、省エネルギーの徹底に取り組みます。また、安全性の確保を大前提とした泊発電所の再稼働、寿都町と神恵内村における高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する文献調査等について、地域のご理解とご協力を得ながら取り組んでまいります。

さらに、需要が増える冬期のエネルギー・燃料の安定供給や、自治体・地域産業と連携した地域分散型エネルギーシステムの導入促進等のサポートを通じ、地域活性化やレジリエンス強化等を推進してまいります。

こうした取組により、新型コロナウイルスの影響による打撃から早期に回復し、さらに地域や企業も有機的に連携した好循環と将来にわたる持続的な発展につなげていくよう努力してまいります。常にアンテナを高くし、フットワーク軽く、関係機関の皆様とともに「強い北海道経済」の実現に向けて職務に邁進いたしますので、より一層のご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

結びに、本年が皆様にとって実りの多い飛躍の年となりますよう、心から祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。



北海道知事
すずき なおみち
鈴木 直道

令和3年 知事年頭所感

新年明けましておめでとうございます。

新春を迎えるに当たり、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症が世界的に大きな影響を及ぼした1年でした。我が国、そして本道においても、この感染症により多くの尊い命が失われ、社会経済にも甚大な影響が生じるなど未曾有の危機に直面し、今もなお厳しい状況が続いています。この間、感染拡大の防止と社会経済活動の両立に向けて各般の対策を進める中で、道民や事業者の皆様には、多くのご苦勞やご負担をおかけしながら、ご理解とご協力をいただいていることに改めて感謝を申し上げます。

現下のコロナ禍を乗り越えるためには、私たち道民が一丸となって取り組んでいかななくてはなりません。今後とも、道民の皆様の命と暮らしを守るため、私自身が先頭に立って全力を尽くしてまいりますので、皆様には引き続きのご協力を賜

りますようお願い申し上げます。

厳しい1年ではありましたが、こうした中でも、1月には道内7空港の一括民間委託がスタートするとともに、4月には林業人材の育成・確保を担う北の森づくり専門学院が開校しました。さらに7月には、アイヌ文化振興の拠点となる民族共生象徴空間「ウポポイ」がオープンするなど、本道の更なる発展につながる新しい芽も生まれています。

また、コロナ禍において、都市一極集中への不安や働き方に対する意識の変化、さらには、サプライチェーンの見直しやデジタル化の進展、脱炭素社会への要請など大きな社会変革の兆しが見られます。雄大な自然や冷涼な気候、ゆとりある空間、多彩で豊富な食やエネルギー資源といった本道の価値は、ウィズコロナ・ポストコロナの中で、一層輝きを増してくるものと考えています。

本年は、こうした本道の可能性を最大限に引き出し、未来に向けた飛

躍の第一歩を刻む年となるよう、大きな強みである食や観光の魅力を一層磨き上げ、道内、国内はもとより、海外の需要を再び獲得するための取組をはじめ、テレワークやワーケーションといった新しい働き方の導入等による企業・人材の誘致、さらには、カーボンニュートラルや北海道 Society5.0 の推進など、時代の先を見据えた政策を積極的に展開してまいります。

また、本年は、東京オリンピックの札幌開催やアジア初のアドベンチャートラベル・ワールドサミットなど世界規模のイベントが予定されているほか、長年活動を続けてきた縄文遺跡群の世界遺産登録への期待がふくらむ年でもあります。こうした好機を着実に捉え、道民の皆様と共に、新しい北海道づくりを進める年にしたいと考えています。

本年が、皆様にとりまして、明るい希望に満ちた年となりますよう、心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

年頭ご挨拶

中小企業診断協会北海道 会長
北海道中小企業診断士会 理事長

やまざき のりゆき
山崎 記敬

北海道協会会員並びに関係機関の皆様、本年もどうぞよろしくお願いたします。

さて、昨年は、新型コロナウイルス感染症対策に終始する一年となりました。



昨年1月に道内で初めて感染者が確認された後、2月末には北海道独自の緊急事態宣言が発出され、4月には全国で緊急事態宣言が発出されるなど、新型コロナウイルス感

染症の影響は社会・経済活動に対して広範に及んでおり、特に私達が日頃から一緒に仕事をしている中小企業・小規模企業者には甚大な影響が今もなお及んでいる状況です。

北海道協会では、北海道からの委託を受け、昨年4月から新型コロナウイルス感染症により経営に影響を受けた中小企業・小規模企業者に対する専門家派遣を実施してきており、100名以上の会員が専門家として登録し、これまで述べ約800社に対して1,000回以上の経営相談や経営支援活動を展開してきました。

これは北海道協会として前例がない規模の経営支援活動であり、会員及び関係機関の皆様には感謝申し上げますとともに、引き続きご協力をお願いいたします。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響は想像以上に甚大かつ広範に及んでおり、かつてないレベルで中小企業・小規模企業者への経営に深刻なダメージを与えていると言わざるを得ません。

また、ウィズコロナやアフターコロナと叫ばれる中、これまで続けてきた業態を時代に適した形態に変革することも求められています。

中小企業・小規模企業者にとって、この新型コロナウイルス感染症がもたらせた難局を乗り切るために、私達中小企業診断士が果たすべき

役割は数多くあると考えています。

話は変わりますが、昨年10月6日経済財政諮問会議、12月1日成長戦略会議において、中小企業診断士が話題となり、現在不足している中小企業経営を担う人材としての活躍が期待されるなど、今後は中小企業診断士としての活動範囲が広がったり、柔軟になるといった変化が進むと考えられます。

また、すでに一部の補助制度や実務実習等では中小企業以外の法人（NPO法人等）が支援対象に含まれるなど、近い将来に中小企業の定義を始めとして、中小企業基本法や支援法など中小企業政策のあり方も見直されると推察しています。

北海道協会においては、このような時代の変化を注視しながら、時代に合わせた協会運営を行っていく一方で、変えてはいけない大事な部分は継承し、中小企業診断士に求められている本質的な存在意義を常に意識しながら、会員及び関係機関の皆様にはもちろんのこと、中小企業・小規模企業者から必要とされる専門家集団を目指して邁進して参ります。

最後になりましたが、令和3年はこれまで以上に皆様と一致団結し、昨年苦しんだ新型コロナウイルス感染症を必ず乗り越え、皆様にとって飛躍の年となりますよう祈念申し上げます。年頭の挨拶に代えさせていただきます。

中小企業の 支援の 現 場

中小企業診断協会北海道
専務理事
きたむら こうじ
北村 耕司

協会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。多くの方々にとって今年度は、新型コロナウイルス感染症にすっかり振り回された一年だったのではないのでしょうか。これまで70年以上にわたり続いてきたさっぽろ雪まつりも中止が決定し、例年のあの賑わいが無いかと思うと寂しい気持ちがいたします。

さて、診断協会北海道では、令和2年春から「新型コロナウイルス感染症中小・小規模企業緊急総合支援事業」に取り組んで参りました。本派遣事業は、新型コロナウイルス感染症により被害に見舞われた道内事業者の皆様を幅広く支援するという目的のもと、当初500者(1者当たり2回)を目標にスタートしました。同年秋には、道庁の補正予算成立により、最終的には800者超の支援を行える体制に拡充されました。これもひとえに、協会員の皆様のご協力の賜物と、改めて御礼を申し上げます。

本派遣事業につきましては、令和2年12月28日現在で700者超からの申し込みを頂き、660者1056回の専門家派遣を実施しました。

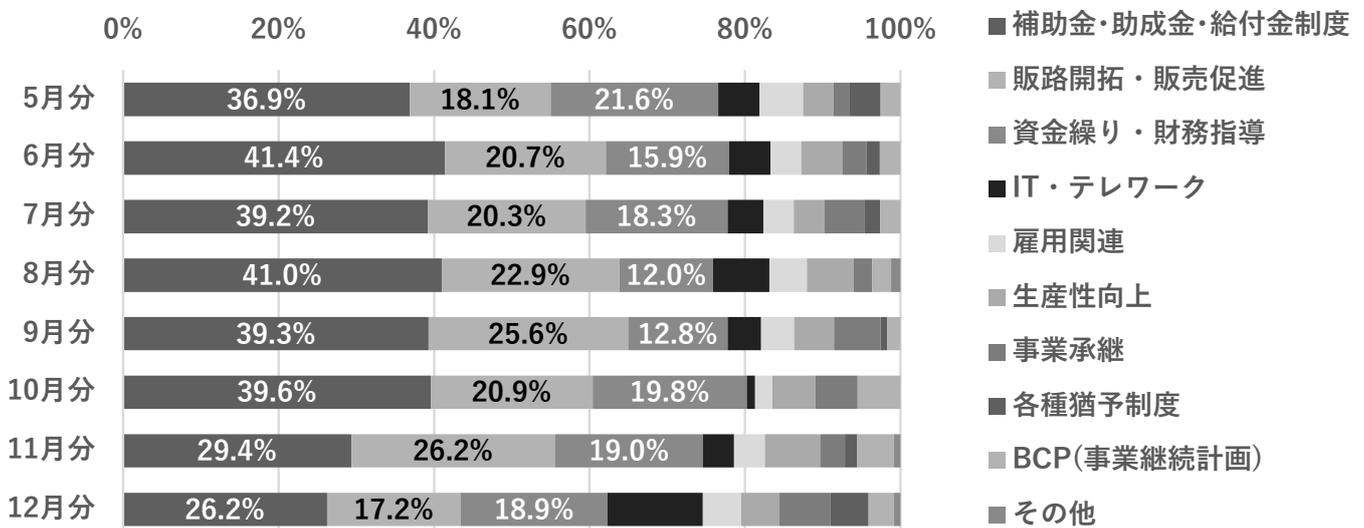
申込業種の割合については、多い順に飲食サービス業(20%)、製造業(13%)、専門・技術サービス業・広告業(9%)、建設業(9%)と続いています。

相談項目の月別推移で見ると、事業開始から継続的に多かった「補助金・助成金・給付金制度」の相談が、11月以降は減少傾向です。また、「販路開拓・販売促進」は、感染の第二波が落ち着いた8月~11月頃にかけて増加傾向です。「資金繰り・財務指導」は、事業開始時に最も多く、以降収束傾向でしたが、第三波が発生してきた10月以降に再び増加に転じています。

令和2年12月現在では、今後も感染の拡大と収束を繰り返す状況が継続するものと予測されます。

昨年に菅総理が表明された「自助・共助・公助」というメッセージからは、コロナ禍を生き抜くために事業再構築に取り組む企業を支援する姿勢が伺えます。そういった企業に、当協会も力強く背中を押せる活動を目指したいと考えておりますので、協会員の皆様には引き続きご協力の程、お願いいたします。

相談項目別推移(複数回答含む)



オンライン会議を極める

オンライン会議の達人が徹底討論

新型コロナウイルスの流行をきっかけに、一気に普及してきたオンライン会議。2名の診断士が、さまざまなツールを実際に使い、それぞれの特徴を語り合いました。意外な情報があるかもしれませんよ！

Cast

診断士 A：オンライン会議歴 10 年。
診断士受験生時は全国の仲間とフルに活用していた。

診断士 B：オンライン会議歴 2 年。
この 1 年でオンライン会議の世界にどっぷりはまる。

>まずは定番のオンラインツールから

Microsoft Teams

A：勤務先では必須のツールです。ビジネス会議では鉄板ですね。今や信頼の Microsoft です。チャットやビデオ通話、ファイル共有はもちろん、Office の書類を共同で編集できるのがとてもいいです。

B：Word や Excel を共同で編集できるのは大きなメリットですね。あ、画面上で A さんのカーソルが動いている。Google ドキュメントみたいですね。

A：Teams の通信品質は、50 人を越えたあたりから低下してきます。多機能なだけにメモリを積んでいない PC はきつところがありますね。

zoom

B：zoom はこの 1 年で大躍進しましたね。zoom の良いところはパフォーマンス

ス。通信パフォーマンスだけでなく、CPU 負荷の高いバーチャル背景を低スペック CPU に対応してきたり。それと、かゆい所に手が届く機能が毎月のように提供されています。自分の顔を変装させるスタジオエフェクト機能は最高！

A：zoom もセキュリティ問題が発覚する以前は使っていました。使う楽しさと通信パフォーマンスは最高ですね。しかし、開発ロケーションや情報漏洩や収集に対するリスクを許容する覚悟が必要かも。

B：セキュリティ面では、E2E（エンドツーエンド）暗号化への対応が進められていますが、現時点では機能的に制限があり、これからっていうところですね。

A：何でも zoom 頼みではなく、用途を考えて使うべきですね。一番安定しているツールですから、大人数が参加し、通信品質を最優先するような、双方向性の低いオンラインセミナーに最適だと思います。

>ビジネスの世界で良く知られたあの会社のツールは？

Facebook

(Messenger、Messenger Room)

B：Facebook（以下 FB）の Messenger Room は、5 月に機能が強化され、zoom の対抗馬になると期待されていたのですが... どうもイマイチですね。

A：Messenger Room は、Messenger と違って、FB を使っていない人にも利用できるのは良い点です。しかし、ビデオ通話は接続が不安定で映像の遅れや音声の途切れが多いですね。アカウント流出発生等、セキュリティへの不安もあります。

B：流出は昨年もありましたね。チャット機能が付いた電話という用途でしょう。

Google Meet

A：診断士受験生時代はドキュメントの共同作業機能をバリバリつかっていました(笑)。Google アカウントがなくてもミ

ーティング機能は使えると聞いていましたが、今回の試用ではログインを要求されました。

B：少し前にもログインできなくなるトラブルがありました。Google のサービスが落ちると何もかも使えなくなる場所が短所でしょうか。

A：Google Meet は他のオンライン会議ツールと比べて画像は荒いですね。しかし、追従性は高く音声もしっかり聞こえるので不便に感じないかな。ホワイトボードやファイルの共同編集機能も Teams より軽量ですね。低スペック PC でも快適に使えそうです。

Cisco Webex

A：Webex、久しく使っていなかったのですが、見違えるくらいに変わりましたね。“反応”アイコンに動きがあって楽しい。

B：ブレイクアウトセッションは zoom のように自由に入出することはできないようです。これができるなら、飲み会にも使えるんですが...

A：Webex は通信品質、機能ともに zoom を意識していますね。ルーターの老舗企業である Cisco のツールなので、zoom の代替品としておすすめです。

B：Webex は、他と違い自社のリレーサーバーを使っているので、パフォーマンスがいいですね。zoom の創業者は元 Webex 社の技術者で、Webex 社が Cisco に買収された後も技術担当副社長として活躍していた方ですね。Cisco もかなり意識しているのではないかと思いますよ。

>個人向けで有名な“あのツール”を試してみましよう

LINE

B：町内会の役員会議で Line を使っています。町内会や PTA は主婦が多く、PTA ではコロナ以前からオンライン会議やオ

ンライン飲み会で Line を使っていると聞いています。

A：私は Line に使っていませんが、利用者が多くて敷居が低い分、一番お手軽です。

B：LINE Meeting を使ってみますか。チャットのビデオ通話は、お友達同士じゃないと使えませんが、Line Meeting のほうは、お友達じゃなくても参加可能です。

A：あれ？ うまくできませんね。Line に入っていないとだめかな？ あきらめましょう。

B：残念。Line Meeting は、zoom に似た UI になっています。プロフィール画像のエフェクト機能がとても充実しており、ビジネスではなく個人のオンライン会議としてはおすすめです。

A：スタンプも充実しているので気持ちを伝える楽しさがありますね。

>ここでダークホース的なツールを試してみましよう

Chatwork

A：意外な名前が出ました！診断士の定番ツールですが、ビデオ通話機能を使っている方は見かけませんね、画面にビデオアイコンがついているのに... かく言う私も今回が初めて(^_^)

B：Chatwork は通信品質が良く、画像の追従性がかなり良い感じ。これ、なかなか使えますね。無料では1対1のみですが、ちょっとした経営相談に使えそうですね。

A：国産のアプリでセキュリティもしっかりしているから、顧客との込み入った話も安心してできます。経営相談には一番のおすすめと言えるのではないのでしょうか。

Skype

A：一番最初のオンラインミーティングが Skype だったんです。久しぶりに使っ

てみて、通信品質が良くなっていることに驚きました。ビジネス向けの機能を Teams に集約したなら、Zoom や LINE のように、使う楽しさも追及してほしいですね。ビデオ通話だけなら Teams よりも Skype の方が良いかも。

B：Teams にとって代わるものと思っていたのですが、Skype は独自に進化していたんですね。機能的にも十分ですし、これは意外な発見でした！

Discord

B：最後に Discord やりましょう！ これ、ゲーマーは知らない人がいない程の超メジャーなツールですよ。ビジネス向けにもそれなりに使えるんじゃないかな？

A：ビデオ通話はイマイチで、ストレスが溜まりますね。ゲーマーの支持がものすごく高いことから有料版を購入すれば品質は良くなるのでしょうか。

B：Discord は WebRTC という新しい通信規格を独自にカスタマイズしており、同時接続数は 250 万らしいです。通信環境やマシンスペックに影響されやすいのかな？

>そして、気が付いたら.....

オンライン会議ツール一覧

	名称	無料版の時間制限	人数	オススメ度
1	zoom	1対1は無制限 複数場合は40分	100人	◎
2	TEAMS	無制限	300人	○
3	Webex	50分まで	200人	◎
4	Google Meet	無制限(2021/3まで) 60分(2021/4以降)	100人	○
5	Messenger (Rooms,チャット)	無制限	50人	△
6	LINE Meeting	無制限	500人	△
7	LINE(チャット)	無制限	200人	△
8	Skype	無制限	50人	◎
9	Chatwork	無制限	2人、有料版は14人	◎
10	Discord	無制限	25人	△
11	Zoho Connect	無制限	5人、有料版は100人	?
12	Whereby	無制限	4人、有料版は12人	?
13	Remo	2時間(14日の 無料お試し版)	50人、有料版は800人	?

A：あっ！もう夜中の2:00だよ！

B：この手の話をすると、止まらないよね。まだ試したいツールがあるんですが、また今度かな。

A：そうですね。またにしましょう。おやすみなさい！

【まとめ】

- 経営相談なら Chatwork がおすすめ。何ととっても安心の国産ツール。そして1対1の通話なら無料。
- 大人数のセミナーは zoom。通信品質、安定性は抜群。
- Webex は試す価値あり。zoom の代わりとして最有望株。
- 研究会や診断協会の会議など、少人数で長時間使うなら Skype がオススメ。無料版でも制限時間がなく、基本機能は zoom や Webex と同レベル。

今回は時間切れで試すことができずでしたが、Zoho, Whereby, Remo といった個性的なツールもあります。興味のある方は一度お試しあれ。
※感想を教えてください。

研究会は今

昨年は世間のあらゆる「集まり」が変化を余儀なくされた一年だったと言っても過言ではないでしょう。それは我々、診断協会北海道の各研究会も同様でした。

協会が各研究会の活動状況についてアンケート調査を行ったところ、コロナウイルスの嵐に負けず、したたかに活動を続けている研究会もあることがわかりました。

一つは 2019 年 6 月に設立された「SDGs 研究会」です。

誕生からまだそれほど時間が立っておらず、会員の熱意も高い SDGs 研究会は月に 1 回のペースで診断協会の事務室に集まり、SDGs に関する意見交換や資料の発表を行っていたそうですが、会員数が増加して場所が手狭になってきたこともあり、昨年 3 月の例会から早くもオンラインに移行。以来 Web で例会を続けています。

仕事や家庭の事情で札幌を離れることになってしまったメンバーも参加できると好評を博しているほか、場所の制約を超えて道外で SDGs 関係の活動を行ってい

る方を講師に招くことができることもメリットだそうです。

設立から 15 年の歴史を持ち、「企業再生・経営改善支援室」を主催して実際に企業再生の案件を請け負ってもある「実践的企業再生研究会」も、Web での例会に取り組んでいます。

同研究会は従来よりメンバーが持ち回りで講師となって会員向けにセミナーを行うスタイルだったため、Web に移行しても問題なく同じスタイルで活動しています。

40 名に迫る大所帯のため、これまで 2 か月に 1 度の例会は会場を借りて開催していました。Web に移行したことでこの費用がかからなくなったということにも注目したいところです。

今のところはまだ「Web 例会は試験運用中」とのことで、研究会メンバー以外の参加受付や外部講師の招聘は行っていませんが、このあたりも徐々に復旧していくことに期待したいですね。

最後は 2018 年 4 月設立の「事

業承継研究会」。

全国に比べても後継者不在企業の比率が高く、廃業の多発が心配される北海道。この現状を前に「診断士による事業承継支援のあり方」を研究し、実際の支援に繋げていくことを目的とした研究会です。

現下のコロナ禍による廃業を食い止めるためにも、M&A 等による事業承継は不可欠です。事業承継に伴うシナジー効果発揮などの経営課題に対して、中小企業診断士の支援スキルが活きる分野です。

現在も偶数月の月末に定例会を開催しており、実際の事例を題材としたケーススタディや現場の実務家による講演等を行っています。

今回ご紹介した 3 研究会の他にも、Web で活動を続けているところはまだまだあります。環境の変化に合わせて変容していくのが企業。コロナ禍にしなやかに順応する研究会に倣って、我々も変わっていききたいものですね。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響により新入会員歓迎のつどいを中止するなど、新しく入会された方との交流機会をもつことが難しい一年でした。そうした中ではありますが、22名の新入会員の方々が中小企業支援の現場等で活躍されています。2020年中に入会された方のうち、本誌での紹介に同意頂いた方から、得意分野と今年力を入れたい分野についてコメントを頂きました。(掲載は原稿到着順)

佐藤 潤一 氏 (2020.11.1 入会)

～問いかけ営業～

得意分野は農林水産業。組織開発へ力を入れたいです。診断活動の目的は社会の生きづらさと不寛容の解消です。

宮下 隆祐 氏 (2020.6.1 入会)

～デザインを戦略に～

得意分野はデザイン。今後もWeb/SEO・販促資料・展示会・ロゴ・商品企画・UI等の制作実務経験を生かしたい。

宮本 大 氏 (2020.12.1 入会)

「商品を軸とした売上げ改善」の提案を行い、コロナ禍でも継続して売上伸長に結び付く新商品開発や販路開拓支援に取り組めます。

中山 宗 氏 (2020.11.9 入会)

計12年間SEとITコンサルだったため、ICTを活用した業務改善が得意分野です。今後は、事業再生のスキルを磨く予定です。

高畑 慎太郎 氏 (2020.12.1 入会)

店舗販促コンサルタント。イベントプロデューサー。2021年は、不慣れな中小企業や店舗等に最適な販促プランを提案します！

鈴木 建 氏 (2020.6.1 入会)

～本格的な診断士活動を～

財務分析関連が得意です。これを足掛かりに、今年途中から本格的な診断士活動を進めて行きます。

木谷 健 氏 (2020.6.1 入会)

得意分野はITですが、それに囚われず知見を広げたいと考えています。4月に独立を予定しています。ご指導いただければ幸いです。

大山 公士 氏 (2020.8.5 鹿児島県協会より転籍)

専門分野は生産・安全管理ですが、アウトプットの場が無いので、報告会での発表の機会を作っていくと考えています。

大田 敏博 氏 (2020.6.8 入会)

得意分野は販路開拓です。業界としては再エネ・BCPに明るいです。2021年は販路開拓×WEBに力を入れます。宜しくお願いいたします。

木原 真由美 氏 (2020.6.1 入会)

2021年は、コーチングやファシリテーションを用いて、お客様に寄り添いながら業務改善支援を行っていきたくと考えています。

石田 英司 氏 (2020.11.9 入会)

自分自身の事業承継の経験を活かし、社長、譲り受ける人の大変さ、つらさに寄り添うアドバイスが出来ればと思います。

西部 一晃 氏 (2020.6.26 入会)

得意分野：PR戦略・販路開拓・財務指導・事業計画書作成支援

2021年は、コロナ禍に喘ぐ外食産業・観光業の支援を強化する。

渡辺 徹 氏 (2020.5.1 入会)

得意分野は「財務会計・原価計算・CVP分析」です。

注力したい分野は「事業再生と事業承継分野」です。宜しくお願いします。

舟根 崇光 氏 (2020.12.1 入会)

経営とデザインを繋ぐコンサルタントとして、マーケティングを中心とした支援を行う診断士として活動していきたいと考えております。

2021年に入った今も、新型コロナウイルスの猛威が衰える気配はまだまだ見えません。中小企業を取り巻く環境は厳しさを増し、中小企業診断士に期待される役割の幅が広がっています。今回掲載した新入会員の方々にも、それぞれの多様な知識と経験を活かし、さまざまな角度から中小企業の支えになっていただけるよう、切にお祈りいたします。

北海道の若手診断士が考える 未来の経営戦略

中小企業診断士の日 特別セッション・オンライン座談会を開催しました

11月4日は中小企業診断士の日です。当協会では毎年ビジネスEXPO 出展等のイベントを実施しており、昨年度（令和元年）には創立60周年記念式典を盛大に開催しました。ところが今年度はコロナ禍のためリアルでイベントを開催す

ることが困難になりました。また、診断士のパートナーである中小企業の経営には深刻な影響が及んでいます。

そこで、リアルに代わるイベントを開催しよう！このような先行き不透明な時代だからこそ、若者の意

見を聞こう！ということで、令和2年11月27日に「北海道の若手診断士が考える未来の経営戦略」と題した座談会をオンラインで開催しました。

中小企業診断士の日特別セッション

～中小企業診断士6名によるオンライン座談会～

北海道の若手診断士が考える未来の経営戦略

主催 (一社)中小企業診断協会北海道
日時 2020年11月27日(金) 19:00~20:00
配信 Facebookページ↓からご視聴ください。
<https://fb.me/e/2Uqj9OoHZ>
※会員に限らず一般の方も視聴できます。
※診断協会北海道のサイトからもリンクします。

2020年新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの中小企業の経営に影響が及んでいます。このような先行き不透明な時代だからこそ、若者の意見を聞こう！ということで、中小企業診断士の資格を取得した北海道の若手診断士を集めたオンライン座談会を企画しました。会員の方はもちろん、一般の方もご視聴できますので、ビジネスの最前線で活躍する若手診断士の意見を聞いて、今後の経営のヒントを見つけてみてはいかがでしょうか？



しずまわ しゅん
杉澤 駿

富士通Japan株式会社に勤務する企業内診断士。神奈川県出身。道内での営業業務を通じて、中小企業におけるデジタル活用と自らのスキルアップを課題に感じ、2020年診断士登録。得意分野（強み）は若さです（笑）



おhtani てつお
大田 敏博

(株)GSユアサ勤務。山口県出身。道内中小販売店の営業支援業務を通じ、自身の経営全般の知識不足を痛感し、2020年に診断士資格取得。得意分野：新規顧客開拓(という名の飛び込み営業)。勉強中：WEBサイト構築



やまもと りゅうじ
山本 翔治

(株)ヤクルト本社北海道支店勤務。神奈川県出身。道内販売会社の総務系業務全般の支援や、支店内の環境改善に取り組む。2017年診断士資格取得。得意分野は総務系業務・創業支援。



にしだ かずあき
西部 一晃

CT経営コンサルティング代表。帯広市在住。本職は占い師だが、経営者からの切迫した相談に対応するために、2020年に診断士資格取得。同年に診断士活動開始。得意分野はPR戦略



みやた たかひこ
宮下 隆祐

札幌出身。文化的な最低限度の生活の実現のためプログラマから診断士を志す。2019年に診断士資格取得。得意分野はデザイン。



やまざき のりお
【司会】山崎 記敬

(一社)中小企業診断協会北海道会長
公務員、中小企業での修行を経て、2007年から診断士活動開始。2020年会長就任。得意分野は経営管理と新規事業。

登壇者は次の6名で、企業内診断士から占い師！（診断士との兼業は全国で2人だけだとか）まで、診断士の多様性を反映した方々でした。

杉澤 駿 富士通 Japan(株)に勤務する企業内診断士。神奈川県出身。道内での営業業務を通じて、中小企業におけるデジタル活用と自らのスキルアップを課題に感じ、2020年診断士登録。得意分野（強み）は若さです（笑）

西部 一晃 CT経営コンサルティング代表。帯広市在住。本職は占い師だが、経営者からの切迫した相談に対応するために、2020年に診断士資格取得。同年に診断士活動開始。得意分野はPR戦略

大田 敏博 (株)GSユアサ勤務。山口県出身。道内中小販売店の営業支援業務を通じ、自身の経営全般の知識不足を痛感し、2020年に診断士資格取得。得意分野：新規顧客開拓（という名の飛び込み営業）。勉強中：WEBサイト構築

宮下 隆祐 札幌出身。文化的な最低限度の生活の実現のためプログラマから診断士を志す。2019年に診断士資格取得。得意分野はデザイン

山本 翔治 (株)ヤクルト本社北海道支店勤務。神奈川県出身。道内販売会社の総務系業務全般の支援や、支店内の環境改善に取り組む。2017年診断士資格取得。得意分野は総務系業務・創業支援

山崎 記敬 (司会) (一社)中小企業診断協会北海道会長。公務員、中小企業での修行を経て、2007年から診断士活動開始。2020年会長就任。得意分野は経営管理と新規事業

座談会では登壇者から次のような発言がありました。視聴者からの質問もあり、活発に意見交換が行われました。

診断士を目指した理由は？

勤務先の販売代理店の経営を支援するため、自分のスキルアップのため、占い師として経営者から受ける悩み相談にきちんと対応したかったため

診断士になって良かったことは？

中小企業向け施策・ロジカルシンキング・ICTなど知識が広がった、勤務先の業務全体を体系的に理解できた、販売代理店に深いアドバイスをできるようになった、同期の診

断士から良い刺激を受けた

北海道について感じていることは？

全国より早く過疎が進むなど社会課題を先取りしている、課題に対応するため地域・業種間でもっと連携してはどうか、すごいブランド価値があるのだから自信を持つべき、商売っ気が少なく損しているように感じる

今後どんな活動をしたい？

まずは相談を適切な支援機関につなげるようになりたい、現場レベルで中小企業の支えになりたい、大好きになった北海道に貢献していきたい、SDGs・CSRの普及や創業支援に取り組みたい

オンライン座談会は初めての取り組みでしたが、今後の中小企業支援に活かせる多くのヒントがありました。リアルで集まるのが難しい情勢が続きますが、診断士の知恵を結集してコロナ禍に立ち向かっていきましょう。

